



第78回大会スペシャル

| 目 次 | 頁 |
|----------------------|---|
| つくば大会ニュース その3 | 1 |
| イデンケン体験入学プログラム | 6 |
| 学習院大学理学部教授公募 | 6 |
| 会員異動 | 7 |
| 第6回遺伝学談話会のご案内 | 8 |

〈編集係から〉

第2号は、日本遺伝学会第78回大会のニュースを中心に緊急特集してお届けすることになりました。すでに、数多くの貴重な原稿をお寄せいただいておりますが、第3号（7月中旬発行）に掲載を予定致しておりますのでご了承下さい。

さて、7月15日には木原賞・奨励賞の選考委員会が開催されます。また選挙管理委員会からの連絡によれば次期会長ならびに評議員の選挙が8月1日から始まります。さらには、日本学術会議から「科学者倫理への取り組みについて」の依頼が学会に届いており、その対応を評議員各位にご検討いただいているところです。2013年の国際遺伝学会を日本で開催することについても委員会の皆様に検討を始めていただいております。次号では本会記事欄にて、これらについて経緯をご報告したいと思っています。ご期待下さい。天候不順の折りから、会員各位の一層のご健闘を祈ります。「つくば」にてお会いしましょう。（石和）

つくば

2006

大会ニュース

その3

日本遺伝学会第78回大会案内

2006年の第78回大会は、つくば市つくば国際会議場を会場に、下記のような企画で準備を進めております。多くの方々の参加をお待ちしております。

大会ホームページ (<http://www.brc.riken.jp/iden78/>) では、より詳細な最新の情報をご覧いただけます。

第78回大会では学生の参加を歓迎するために、事前登録した学生会員の参加費は無料とし、学生の旅費援助も前年に引き続き行います。また、優れた発表に対してBP賞として表彰いたします。

1. 会 場 つくば市つくば国際会議場（つくば市竹園2-20-3）
2. 会 期 2006年 9月25日（月）・26日（火）・27日（水）
なお、市民公開講座を9月23日（土）午後1時～午後5時。
3. 企 画
 - (1) シンポジウム
タイトルとオーガナイザーは以下のとおりです。
第1日（9月25日、午後1時～午後5時）
1) 「発生分化のgeneticsとepigenetics」
佐渡 敬（遺伝研・人類遺伝）、阿部訓也（理研BRC）

- 2) 「栽培植物の遺伝的多様性と転移因子の役割」
行弘研司（農業生物資源研）
- 3) 「逆遺伝学的アプローチと新しいゲノム機能解明への展開」
権藤洋一（理研 GSC）、藤堂 剛（京大放射線生物研究センター）
- 4) 「新興再興感染症と遺伝学への期待」
池田秀利（動物衛生研）、若菜茂晴（理研 GSC）

第2日（9月26日午後3時～午後5時）

「比較ゲノムによる進化研究の最前線」

澤村京一（筑波大）、那須田周平（京大）

第3日（9月27日、午後）

「ナショナルバイオリソース・プロジェクト シンポジウム」

小林正智（理研 BRC）、吉木 淳（理研 BRC）

- (2) 一般講演（9月25日午前中、26日午前中、27日午前中）

講演時間は1題につき15分（質問時間を含む）を予定しております。PCによる発表のみのため、USBフラッシュメモリーあるいはCD-ROMにデータを保存してお持ち下さい。

- (3) ワークショップ（9月25日午後5時～7時、26日午後1時～3時）

ワークショップは以下の8テーマを予定しております。これまでの大会ニュース等でお知らせしましたように、ワークショップでは、世話人により準備された講演者の発表に加えて、一般講演からの参加を募集しております（若干名）。一般講演で申し込まれた演題を発表しても良いと思われるワークショップテーマがあります場合は、一般講演申し込みの際に、該当するテーマを演題申し込み画面にて1つ選択してご応募ください。応募演題がワークショップで発表されることになった場合、その演題での一般講演の発表はありませんのでご注意ください。ワークショップのみの発表希望は受け付けておりません。一般講演として申し込みがあったものから決めさせていただきますのでご了承ください。なお、ワークショップにおける発表の可否については、ワークショップ世話人にご一任いただきます。

第1日（9月25日）

- 1) テーマ：染色体動態とエピジェネティクス

世話人：永田恭介（筑波大学）、深川竜郎（国立遺伝研）

講演予定者：永田恭介、深川竜郎、池村淑道、松浦 彰、田辺秀之

テーマの概要：ゲノムプロジェクトの進展に伴い、遺伝学を基盤にとらえられてきた種々の生命現象も真に塩基配列で語れる時代が訪れた。しかし、染色体の形態や機能については、塩基配列からだけでは理解できない事実も残されている。また、これまでは分子メカニズムの詳細が分からなかった遺伝子の変化だけでは説明できない形質の維持と継承のメカニズムについても解析のメスが入れられ始めている。本ワークショップでは、「遺伝学外遺伝学的現象」の分子基盤について、染色体動態の最前線研究も含めて、討論する。

- 2) テーマ：脳・神経系の進化遺伝学

世話人：五條堀孝（国立遺伝研）

講演予定者：未定

テーマの概要：さまざまな生物種について脳・神経系の進化遺伝学に関する研究発表を通じて、今後のこの分野発表を展望する。とくに、ゲノム、遺伝子発現、プロテオミクス、ゲノムネットワークなどの基盤情報をMRIなどの構造情報および機能情報を結合して脳・神経系の進化過程の解明にどう立ち向かっていったらいいかを議論したい。

- 3) テーマ：栽培植物の遺伝学：雑種形成、倍数性進化、多様性

世話人：松岡由浩（福井県立）、宅見薫雄（神戸大学）

講演予定者：久保山勉、三浦励一、宅見薫雄

テーマの概要：19世紀、遺伝学の基礎を確立したメンデルのエンドウマメの交配実験はいうに及ばず、栽培植物は、遺伝学の研究材料の代表選手である。しかし、20世紀中盤以降、分子生物学の発展とその強烈なインパクトのもと、ゲノムサイズが大きくなり、世代時間も長く、育成に手間がかかり、圃場の確保に苦勞する栽培植物は敬遠され、遺伝学におけるその特別な地位を他に譲ることになる。しかし、21世紀に入り、生物のもつ多様性への関心が高まる中、種形成、倍数化、栽培化など、従来のモデル生物では必ずしも研究が容易ではない生命現象の理解が、遺伝学の新しい課題として浮上した。ゲノム科学が進展した今日、リソース・コレクションが

充実した栽培植物は、遺伝学の発展に大きく貢献すると期待される。そこで、遺伝学の研究材料としての栽培植物の現代的魅力を広くアピールすることを狙いとして本ワークショップを企画する。本ワークショップでは、雑種弱勢の遺伝機構（イネ）、作物 雑草平衡多型の発見（トウジンビエ）、倍数化プロセスの再現（コムギ）を中心に、特に魅力的な話題を提供し、我が国における栽培植物を材料とする遺伝学研究の活性化につなげたい。

4) テーマ：糸状菌の遺伝学の新たな展開

世話人：井上弘一（埼玉大学）、鎌田 堯（岡山大学）

講演予定者：村口 元、鎌田 堯、阿部敬悦、井上弘一

テーマの概要：多くの生物でゲノムの解読が進んでいるが、糸状菌の研究分野でも *Neurospora* や *Aspergillus* それにキノコの *Coprinus* などのゲノムの解読が終了し、現在、*Schizophyllum* なども解読が進行中である。糸状菌は麹などの有用菌、いもち病などの植物病原菌、人につく病原カビ、食料のキノコなど様々な分野があり、多くの応用と結びついた研究分野であるが、一方では、遺伝学の基礎的な研究に貢献してきたモデルカビもあり、非常に幅広い分野である。本ワークショップではゲノム解読とそれにともない現在飛躍的にすすんでいる糸状菌に特徴的な興味深い研究とその技術をそれぞれの研究に携わっている方々に発表をお願いし、活発な議論を行いたい。

第2日（9月26日）

5) テーマ：ヒトの進化——自然選択の役割——

世話人：颯田葉子（総研大）

講演予定者：高畑尚之、海部陽介、斎藤成也、長谷川真理子

テーマの概要：ヒトのゲノム配列が決定されてここ数年、遺伝学の分野におけるヒトの進化研究では、ダーウィン流の正の自然選択の対象となった塩基置換が観察される遺伝子を明らかにすることに焦点があてられてきた。ヒトのさまざまな生物学的特性を考えると、正の自然選択がその特性獲得の原動力となったことは間違いない。しかし、この自然選択の働きによりヒトのあらゆる形質が獲得されたかという点には疑問が残り、また自然選択の結果が現代の環境と相容れない状況に陥っている例があるのも事実である。そこで、本ワークショップでは、ヒトの生物学的特性を行動・文化・形態・遺伝の異なる視点から明らかにし、これらのヒトの生物学的特性獲得の過程に自然選択が果たした役割について議論する。この議論を通して、『ヒトとは何か』を考える手がかりとしたい。

6) テーマ：高校での遺伝教育を考える

世話人：池内達郎（東京医科歯科大学）、向井康比己（大阪教育大学）

講演予定者：颯田葉子、池内達郎、阿知波哲夫、他

テーマの概要：昨年本学会に新設された「遺伝学の教育と普及に関する特別委員会」（委員長：武部啓先生）の活動の一環として、昨秋の公開講演会「遺伝をプラスイメージに：教育の重要性」につづき、今回は学会員を対象としたワークショップを企画する。一般社会の人々に遺伝学リテラシーを根付かせるための原点は学校教育にある。とくに「遺伝」現象を科学的に学ぶ高校「生物」（とくに「生物Ⅰ」）が重要であるが、80年代からの「ゆとり教育」の基に授業時間数が減ったのに伴い、学習内容の低減化（例えば近年の生命科学の進展が教科書に反映されていない、「ヒトの遺伝」や突然変異の用語が消えた、など）が著しいなど、現場は極めて憂慮すべき状況にある。本ワークショップでは、高校「生物」の現状を紹介し、ゲノム時代といわれる21世紀に相応しい遺伝教育のあり方や、高校「生物」の「遺伝」に関するミニマルエッセンシャルは何か、などについて議論を深める機会を提供したい。

7) テーマ：代謝制御における転写

世話人：横山勝志（産総研）、牧野耕三（防衛大）

講演予定者：鈴木 理、石浜 明、他

テーマの概要：バクテリアの遺伝学から出発した転写調節の研究分野と、高等動植物を対象とする生化学から出発した代謝機構の研究分野とは、個別の分野として認識されてきていた。近年、ゲノムプロジェクト等の研究成果からバクテリアを初めとする動植物の多くの生物種の全DNA配列が明らかになった。その結果、それら生物に存在する転写因子の種類や数が明らかになり、種々の生物の代謝機構を制御する転写因子による調節系の全体像について、網羅的に追えることが可能となりつつある。本テーマでは、種々の代謝ステップを調節する転写系の生物

種間における共通性及び相違性に着目することによって、代謝制御における転写とは何かということについて議論したい。従来の考え方にとらわれず、生命における代謝調節がどのように転写因子によって制御されているかを理解することを目的として、多くの分野から（6演題程度）演者を公募する。

- 8) テーマ：生命の多様性を生み出すゲノム変化——分子遺伝学から比較ゲノム学まで——
世話人：真木寿治（奈良先端）、篠原 彰（阪大、蛋白研）
講演予定者：未定

テーマの概要：地球上の生命の多様性はゲノムの多様性を反映しており、ゲノムは長い時間をかけて、さまざまな変化を受ける事で生物種固有の機能的多様性を獲得して来た。ゲノムの変化には入れ換え（組換え）、重複、欠失などが染色体レベルで起きる大規模な変化や、DNAヌクレオチドレベルでの置換等の小規模な変化が挙げられる。ゲノムの変化としての突然変異の研究は、原核生物を中心に、その分子機構が明らかにされつつある。近年、様々な生物の全ゲノム配列が決定される事によって、生物種の多様性を生み出すゲノムの変化の足跡が明らかにされつつある。本ワークショップでは遺伝学の本質であるゲノムの変化について、大腸菌を用いた分子遺伝の解析から、バイオインフォマティクスを駆使した比較ゲノム学までを広い意味での遺伝学の分野縦断的に最近の発展を俯瞰する事により、ゲノムの変化に関する新しい学問領域を生み出す萌芽的なワークショップを目指したい。

4. 講演要旨締め切り：2006年7月5日(水)
5. 総会・受賞講演：つくば国際会議場
9月26日(火) 午後（17：00～18：45）
6. 懇親会：つくば国際会議場
9月26日(火) 夜（19：00～21：00）
7. 学生への旅費援助

学生会員の講演を奨励するために、発表する学生会員に旅費の一部（交通費実費程度）を援助いたします。所属研究室や日本学術振興会などから旅費支給が受けられる方はご遠慮ください。なお、大会全期間（9月25日～27日）参加を条件とします。希望される方は、①氏名、②所属・学年、③所属住所、④旅費援助を必要とする理由、⑤メールアドレスをA4 1頁に記載し、指導教官のサイン・押印を貰った上で郵送にて下記の住所までお申し込み下さい。締め切りは7月5日(水)といたします。

送付先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会
TEL：055-981-6736 FAX：055-981-6736

注) 申請書は必ず申請者一人につき1枚提出してください。研究室単位で申請された場合には、先頭に記載された方だけの申請となります

8. Best Paper 賞：

昨年の大会と同様の要領で、大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで表彰いたします。

9. 一般講演申し込み：

大会ホームページ (<http://www.brc.riken.jp/iden78/>) の申し込み画面から申し込んで頂くようになっております。一般講演の申し込みは1人1題を原則とします。（ワークショップ・シンポジウム等で講演を依頼された演題につきましては、この限りではありません。）

大会の一般講演・ワークショップで発表出来るのは日本遺伝学会会員のみです。2006年度までの遺伝学会費を、必ず事前にお納めください。発表される方で日本遺伝学会に入会されていない方は、先に入会手続きを行って下さい。入会手続きは、日本遺伝学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>) にご案内いたしております。

演題申し込みの際には日本語要旨と英語要旨の両方を登録して頂きますよう、お願い申し上げます。またワークショップでの発表を希望される場合は、演題申し込み画面にて希望するテーマを1つご選択ください。

オンライン演題登録をした後は、確実に登録されているか、確認修正画面にて登録番号とパスワードを用いて必ずご確認下さい。登録番号やパスワードを忘れてしまった場合のお問い合わせには応じられません。パスワードを忘れてしまった演題で修正が必要になった場合には、お手数ですが登録をやり直していただき、そのことを学会事務局 (iden78@brc.riken.jp) までお知らせいただけますようお願いいたします。講演要旨締め切りは7月5日(水)です。

10. 参加登録:

大会ホームページ (<http://www.brc.riken.jp/iden78/>) から参加申し込みを行い、参加受付番号を取得し、GG5 Vol. 81 No. 1 に綴込みの払込票にて郵便局で払込みをお願いいたします。

その際、通信欄に、・参加受付番号

- ・会費（一般会員・学生会員・一般非会員・学生非会員）と懇親会費（一般会員・学生会員・一般非会員・学生非会員）それぞれの金額と合計の金額
- ・学生の方は、所属機関、学年、指導教官名

をご記入下さい。

参加費・懇親会費

会員・非会員で参加費が異なります。

会員の方は2006年度までの遺伝学会費を必ず事前にお納め下さい。

現在非会員で、会員料金で参加登録されたい方は、先に入会手続きを行って下さい。

当日登録する学生非会員は学生証の提示をお願いします。提示のない場合は一般非会員扱いとなりますので、必ずご持参下さい。

参加費

| | 事前登録 (～7月31日迄) | 事後登録及び 当日登録 (8月1日以降) |
|-------|-------------------|----------------------------|
| 一般会員 | 7,000円 | 8,000円 |
| 学生会員 | 無料 | 3,000円 |
| 一般非会員 | 9,000円 | 10,000円 |
| 学生非会員 | 3,000円 | 3,000円 |

懇親会費

| | 事前登録 (～7月31日迄) | 事後登録及び 当日登録 (8月1日以降) |
|-------|-------------------|----------------------------|
| 一般会員 | 6,000円 | 7,000円 |
| 学生会員 | 3,000円 | 4,000円 |
| 一般非会員 | 6,000円 | 7,000円 |
| 学生非会員 | 3,000円 | 4,000円 |

注意事項

- 大会及び懇親会への参加者は、必ず参加登録を行ってください。参加章の無い方は、原則として会場への入場はできません。
- 参加登録の完了には、Web上での参加申し込み及び参加費の振込の両方が必要です。7月31日迄に参加登録された場合でも、8月1日以降に参加費を振込まれる場合は、事後登録の金額をお支払い下さい。
- インターネットからの大会及び懇親会参加申し込みは、8月31日(木)をもって締め切らせていただきます。9月1日(金)以降の参加登録は、当日受付にてお願いします。
- 8月31日までにオンライン参加登録ならびに会費のお支払いを済まされた方には、9月上旬に参加章と講演要旨集を郵送します。それ以外の参加者には大会当日にお渡しします。

払い込んだ方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。

1枚の払込取扱票を用いて研究室単位等でまとめて支払わないようお願いします。

所定の払込取扱票がない場合：郵便局に備え付けの用紙（青色）で、下記郵便振替口座までお払込みください。

<送金先>

| | |
|------|----------------|
| 口座番号 | 00110-5-298420 |
| 加入者名 | 日本遺伝学会第78回大会 |

当日登録

事前・事後登録期間に参加登録をされなかった方は、当日会場で参加登録をして下さい。参加章と講演要旨集は参加費と引き換えにお渡しします。

11. 日本遺伝学会第78回大会準備委員会

大会委員長：小幡裕一 理化学研究所 バイオリソースセンター長

大会プログラム委員長：阿部訓也 理化学研究所 バイオリソースセンター

TEL：029-836-9198 FAX：029-836-9199

12. 連絡先:

理化学研究所 筑波研究所 研究推進部企画課

TEL：029-836-9142 FAX：029-836-9100 Mail：iden78@brc.riken.jp

イデンケン体験入学プログラム

国立遺伝学研究所（イデンケン）で研究体験してみませんか！

今年も遺伝研では、例年好評の体験入学プログラムの入学生を募集します。実際に遺伝研の研究室に所属し、研究を体験してもらうプログラムです。今年は、昨年までの夏期コース（10日間）に加え、受入期日を決めない随時コースをスタートしました。大学生あるいは大学院修士の学生であれば応募可。期間中は所内のゲストハウスに滞在し、実験、研究だけでなく、論文紹介クラブや研究結果の討論会などに参加できます。

夏休み等を有効に利用して、キャリアを高めるための絶好の機会です。

【日 時】 夏期コース：2006年8月21日(月)～8月30日(水)

随時コース：受入予定研究室と相談して日時、期間を決定

【場 所】 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所

【募集人数】 夏期コース：10名程度 随時コース：若干名

【応募締切】 7月3日(月)

【提出書類・応募方法・参加費】 ホームページ (<http://www.nig.ac.jp/jimu/taiken/index2006.html>) の体験入学プログラムの案内をご覧ください。

【結果の通知】 7月12日(水)までに応募者の希望の方法（メールまたは郵便）にて連絡します。

【連絡先・応募書類提出先】 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所・総務課総務係（大学院担当）

E-mail: info-soken@lab.nig.ac.jp Tel: 055-981-6720 or 6707

主 催： 総合研究大学院大学／国立遺伝学研究所

総研大では以下のところでも体験入学を行います。

基礎生物学研究所・基礎生物学専攻 (<http://www.nibb.ac.jp/>)

生理学研究所・生理学専攻 (<http://www.nips.ac.jp/>)



学習院大学理学部教授公募

学習院大学理学部では、2008年度に大学院生命科学専攻を、2009年度に生命科学科を設立する計画を進めています。専攻・学科の開設に先立って着任し、開設の中心メンバーとなっていただく教授2名を下記の通り募集致します。希望者の応募、適任者への周知をお願い致します。

学習院大学理学部

生命科学科開設準備委員会委員長

小谷 正博

記

募 集 人 員： 教授2名

着任予定時期： 2007年4月

所 属 等： 生命科学科、生命科学専攻の設置を準備中につき、着任時は化学科ないしは物理学科に所属。それぞれ、1名の助手を採用し、研究室を主宰していただく。停年70歳。

募 集 分 野： 新学科・新専攻の中心となり、幅広い視点から生命科学の研究と教育を活発に展開できる人材を求める。専門分野は限定しない。なお、生命科学科全体としては、分子細胞生物学を共通の基盤として、下記の三つの分野を中心にして教育・研究を進めていくことを構想している。(1)分子細胞生物学(分子生物学、細胞生物学、生物化学、生物物理学、構造生物学、などを含む)、(2)個体の生物学(酵母、ハエ、線虫、メダカなどのモデル生物を用いた遺伝学、発生学、生理学、行動学、ヒトを主な対象としたガン・免疫・脳の生物学などを含む)、(3)系統・進化生物学(ヒトを含む霊長類の進化・行動、実験的進化学、パイオインフォマティクス、理論生物学などを含む)。

提 出 書 類： (1)履歴書(写真貼付)、(2)業績目録、(3)主要論文5編(できれば総説を含む)の別刷(コピー可)、(4)研究業績の概要と今後の研究の展望(2000字以内)、(5)教育と新学科設立についての抱負(1000字以内)、(6)候補者についての意見を伺える方2名の氏名、連絡先。

応募締め切り： 2006年7月31日

書類提出先： 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院大学理学部事務局

(封筒に「理学部教員応募書類」と朱書き、簡易書留で送付のこと)

問い合わせ先： 学習院大学理学部事務局 (TEL 03-3986-0221 内線6452, e-mail sci-off@gakushuin.ac.jp)

参照 URL <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/sci/top/faculty-recruit.html>

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

| | | |
|---------|----------|---|
| 坂 本 正 弘 | 606-8502 | 京都市左京区北白川追分町 埼玉大学大学院博士前期課程理工学研究所分子生物学専攻 |
| 池 田 正 五 | 700-0005 | 岡山県岡山市理大町1-1 岡山理科大学 理学部 生物化学科 |
| 宮 川 宏 義 | 338-0824 | 埼玉県さいたま市 |
| 木 全 翼 | 464-0072 | 名古屋市千種区 |
| 辛 島 健 | 179-0072 | 東京都練馬区 |
| 田 坂 昌 生 | 630-0192 | 奈良県生駒市高山町8916-5 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 |
| 喜屋武 洋 子 | 464-8602 | 愛知県名古屋千種区不老町 名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻 生体構築論講座 |
| 星 良 和 | 869-1404 | 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 九州東海大学農学部応用植物科学科 |
| 尾 本 恵 市 | 240-0193 | 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村) 総合研究大学院大学葉山高等研究センター |
| 半 田 直 史 | 108-8639 | 東京都港区白金台4-6-1 東京大学新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻 |
| 長谷川 真理子 | 240-0193 | 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村) 総合研究大学院大学 |
| 中 村 真理子 | 229-0032 | 神奈川県相模原市矢部 |

住 所 変 更

| | | |
|-----------|----------|---|
| 松 浦 彰 | 263-8522 | 千葉県稲毛区弥生町1-33 千葉大学理学部生物学科分子細胞生物学講座 |
| 荻 原 保 成 | 244-0813 | 横浜市戸塚区舞岡町641-12 横浜市立大学木原生物学研究所 |
| 粟 田 ひろ子 | 240-0193 | 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-35 総合研究大学院大学 先端科学研究科 生命体科学専攻 田辺研究室 |
| 風 間 裕 介 | 351-0198 | 埼玉県和光市広沢2-1 独立行政法人 理化学研究所 仁科加速器研究センター生物照射棟 |
| 武 田 穰 | 464-8602 | 名古屋市千種区不老町 名古屋大学産官学連携推進本部 |
| 奥 野 員 敏 | 305-8572 | つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻 植物育種学研究室 |
| 石 井 裕 | 703-8516 | 岡山市西川原1-6-1 就実大学薬学部 |
| 小見山 智 義 | 259-1193 | 神奈川県伊勢原市望星台 東海大学医学部基盤診療学系臨床薬理学 |
| 出 田 収 | 721-8514 | 広島県福山市西深津町6-12-1 近畿中国四国農業研究センター低コスト稲育種研究近中四サブチーム |
| 斎藤(田中)くれあ | 020-8550 | 盛岡市上田3丁目18-8 岩手大学農学部附属寒冷バイオシステム研究センター(細胞複製研究分野) |
| 池 村 淑 道 | 526-0829 | 滋賀県長浜市田村町1266番地 長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部 バイオサイエンス学科 生命情報科学コース |
| 日 高 真 純 | 812-8582 | 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院医学研究院 基礎医学部門 生体制御学講座 基礎放射線医学分野 |
| 加 藤 和 貴 | 812-8582 | 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学生体防御研究所藤研究室 |
| 吉 川 欣 亮 | 099-2493 | 北海道網走市八坂196 東京農業大学 生物産業学部 生物生産学科 ゲノム・生物資源・自然分野 動物資源管理研究室 |
| 氷 見 英 子 | 716-1241 | 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7549-1 岡山県生物科学総合研究所 遺伝子統御解析第一研究室 |
| 小 森 加代子 | 770-8514 | 徳島市山城町傍示180 徳島文理大学 健康科学研究所 |
| 名 和 暢 一 | 113-0033 | 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 |
| 山 本 章 治 | 739-8530 | 東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院 先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻 |

退 会

吾妻 健, 遠藤真咲, 遠藤高帆, 蜂谷紀之, 平野世紀, 帆足梨菜, 一戸晶元, 井出康人, 石田奈央子, 岩本和也, 尾谷寿昭, 蟹江美奈, 小林昌彦, 小堂直彦, 久保田基成, 松下裕毅, 三上一保, 南井佐妃子, 宮下信泉, 村山 孝, 鍋山美香, 中川ゆづき, 尾田真子, 大段隆史, 大村武史, 大西一光, 笹隈哲夫, 佐竹若菜, 佐藤 光, 島本 功, 末田祐子, 杉田 護, 鈴木隆夫, 田中 淳, 渡辺直春, 矢嶋伊知朗, 山田恭司, 山口武志, 山崎常行, 石川 健, 林 克己, 水野重樹, 橋田慎之介, 平島義紀, 向 敦史, 薄井俊樹, 阿部清美, 村山力則, 清水恒典, 重定勝哉, 藤本浩文, 長瀬友美, 江口久美子, 毛谷村賢司, 安野志津, 辛 昌錫, 園田 陽, 西 明紀, 山名良正, MASOUDI-NEJAD ALI, KATTO, MARIA CRISTINA, 川原善浩, LEE, JAE MIN, 吉川由香里, 堀 一也, 高橋恵輔, 新関 稔, 宮崎慎也, 斎藤吉尚, 塩野義製薬(株) 創薬研究所, 野田健一, 李 範揆

(06/6/5現在・鈴木真有美)

第 6 回 遺伝学談話会のご案内

日 時： 平成18年7月7日（金）午後3時より午後5時まで（懇談会は5時30分より）
場 所： 日本学士会館202号室（懇談会は日本学士会館307号室）
講 師： 大澤 省三（日本遺伝学会名誉会員）
テ ー マ： 『新しい博物学—オサムシの研究から』

要 旨： 昆虫や植物を集め、名前をつけ、類縁関係を形態や生態をもとに類推する学問を博物学という。そうなれば、それらの系統進化の道筋や原理を知りたくなるのは当然の帰結であろう。しかし、形態や生態だけでは研究者によって基準が違い、主観的にならざるをえない。そこで現れたのが蛋白のアミノ酸配列や核酸の塩基配列の比較による分子系統進化学で、これらによって一応客観的に系統関係を推測できるようになった。特に、最近ではDNAの塩基配列の決定が容易になるに及んで膨大な生物群の系統樹が作成されつつある。しかしその多くは形態・生態からの系統分類との一致や矛盾の指摘にとどまり、分子系統樹に隠された生物学的に未知、ないしは重要な原理的問題の追及はまだ初期の段階にある。いいかえれば、現在は新しい博物学誕生の時期にあたるといえよう。ここでは、私たちの研究グループが最近進めているオサムシの進化の様式、種形成、雑種の安定化と分布域に拡大など、系統樹から読み取ることができた（と思っている）幾つかの生物学的に興味がある「新しい博物学」の話題を提供したい。



講師の自己紹介： 1928年 東京生まれ。昆虫少年として名古屋育ち。1951年名古屋大学理学部生物学科を卒業する直前までは昆虫学者になるつもりだった。丁度そのころ、核酸を中心とする分子生物学（その頃はまだ分子生物学という呼び名はなかった）が現れたので変身し、Rockefeller 医学研究所のA. E. Mirsky 博士の研究室へ留学。帰日後はもっぱら核酸、蛋白合成の研究に従事。名古屋大学分子生物学研究施設、広島大学原爆放射能研究所の職員を経て、名古屋大学理学部生物学科へもどる。そこでは遺伝暗号は凍結されておらず、進化していることを示す研究をおこなった。1992年定年退官。1992～2001年JT生命誌研究館常勤顧問として、昆虫少年の夢と、分子生物学をドッキングさせ、オサムシの分子系統進化の研究に従事、世界のオサムシの系統樹作成という意味では一応の纏めをおこなった。しかし、その中に含まれる生物学的な重要問題の解析にはほど遠く、現在もアマチュア昆虫研究家の協力のもと、自宅で細々と仕事を続けている。

日本遺伝学会主催： より詳しい情報は、GSJ コミュニケーションズ81（1）にてご覧になれます。
参 加 費： 無料（懇談会には2,000円／人をお願いいたします。学生さんは懇談会も無料です。）
連絡問い合わせ先： 参加資格は問いません。ご質問は総合研究大学院大学先端科学研究科生命体科学専攻 颯田葉子（tel: 046-858-1574；e-mail satta@socket.ac.jp）まで。
懇親会に参加を希望される方は準備の都合により6月24日までに颯田までお知らせ下さい。
ア ク セ ス： 地下鉄「神保町」駅A9出口1分、地下鉄「竹橋」駅から徒歩5分、「東京」駅北口からタクシーで10分、詳しくは学士会館のホームページ（<http://www.gakushikaikan.co.jp/info/access.html>）をご確認ください。以上

本誌の発行に関しては平成18年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）をうけているので、ここに付記する。

| | |
|---|---|
| <p>Genes & Genetic Systems 第81巻2号（付録） 2006年4月25日発行 頒価3,000円（本誌とも） 発行者 石和 貞男・遠藤 隆 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p> | <p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html （電話・FAX 055-981-6736） （振替口座・00110-7-183404） 加入者名・日本遺伝学会</p> <hr/> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p> |
|---|---|

この冊子に記載してある個人情報については、慎重に取り扱っていただきますようお願いいたします。